

城山遺跡

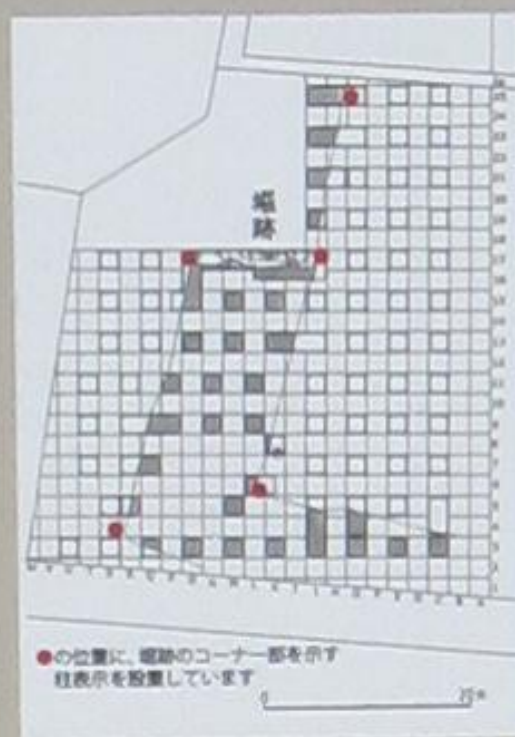


城山周辺の絵図と伝承地名

下福岡城山公園を含む一帯は城山と呼ばれ、江戸時代後期成立の「新編武蔵風土記

稿」では、後北条氏家臣富永善左衛門の居館であろうと記載されています。また、「城山と富永善左門」／井田実著(市史調査報告書第七集)によると、現地には伝承地名として、「戸開き(大手門)」、「たかま(高馬場)」、「いぬ(乾の方位)木戸」、「湯殿(屋号、地名)」、「屋敷」などが確認されています。また、寛政六年(1794)の絵図面では、新河岸川が下福岡地域を北・東・南と回り込むように流れており、富永善左衛門の館を流路が取り囲むように存在していたことがわかります。

平成十七年度には公園造成に先立ち発掘調査を行っていますが、その際に幅十二メートルの堀が北側から東側へし字状に屈曲している状況を確認しました。出土遺物としては、中世の常滑甕胴部破片を確認しています。



城山遺跡確認調査全測図

